

## 三島・パサディナ姉妹都市美術交流展ギャラリートーク

2020年10月1日13時より三島市民文化会館ギャラリーにて

参加者：望月康隆館長、岡部稔氏、川合朋郎氏、山本雄大氏、渡辺有葵氏  
(横井山泰氏は授業のため欠席)

司会：鈴木生(MAK ミシマ、みんなのアートの会副代表) 以下敬称略

司会：では、ただ今から三島・パサディナ姉妹都市美術交流展のオープニングを行います。本展は60年以上継続している三島市の姉妹都市交流に文化芸術の視点を加え、国際交流の次なる展開を目指す、という趣旨の展覧会となっております。今回は新型コロナウイルスの影響でパサディナ市の作家作品は少なくなりましたが、三島にゆかりのある作家たちの力溢れる作品を紹介することで皆さんに何か感じていただければと思います。申し遅れましたが、私は本展を主催しているMAK(ミシマ、みんなのアートの会)の副代表の鈴木と申します。なおこのオープニングは一度に多くの方が集まらないように、ということからズームで会場の様子を伝えています。それでは、長くなりましたが、まず会場である三島市民文化会館の館長である望月康隆さんより一言いただきます。望月館長様よろしく願いいたします。

望月：本日はご苦労様です。三島市民文化会館の望月と申します。

三島市民文化会館は大規模改修工事ということで昨年10月から1年間の工事を行いまして本日から新たにリニューアルオープンいたしました。三島市としましては、数年前に文化振興基本条例を作成しまして、文化会館の役割についてより明確にということで、文化の交流拠点、また文化振興の拠点としての役割があるという目的が具体的に記されております。今回の改修工事の一つとなっておりますのは、イベントスペースの増設ということで外の広場を新設して、スペースをフラットに広く使えるような作りにしましてオープンスペースとして外からのお客様の動員が行われるということと、あともう一つはこちらのギャラリースペースです。今まで文化会館は音楽イベントが中心になっていましたが、様々な文化の交流拠点ということから今回こちらのギャラリースペースも作らせて頂いたという経緯がございます。それで、みなさん、作品を展示していただいています、最初に工事が終了した段階で真っ白なスペースで何もなかったのですが、やはり作品を置いていただくことで空間としてもとても充実していますし、市民の方も気軽に足を運んでみていただけるような形になっておりますので本当にありがたいと思います。今後も継続してこういった美術展を企画いただいて市民の方にも宣伝いただいてどんどんいらしていただけるように我々もPRの方も協力して参りますので今後ともご協力の程よろしくお願いいたします。本日はありがとうございます。

司会：ありがとうございました。では次に、本展の作家の方々、自己紹介のほどお願いいたします。

川合：川合です。よろしくお願いします。

岡部：岡部と申します、写真作品を発表させて頂いています。よろしくお願いします。

渡辺：渡辺有葵と申します。油絵を描いて発表させて頂いています。よろしくお願いします。

ます。

山本：山本雄大です。彫刻をしています。よろしくお願いします。

司会：今回こけら落としということでこの空間に展示を行いました、何か一言頂けましたら、と思います。

川合：このスペースを今回の三島市民文化会館の改修工事に合わせて作品が展示できるスペースにできれば良いな、ということを考え出したのは2年ほど前ですかね？三島市の文化振興課の方々に助けて頂いて色々な案を出していただいた中で、いまこのスペースが発掘されて、その流れの中で、ちょうどこの空間の中に作品が展示できたら良いなと話しているうちにだんだん出来上がっていった空間だと思うのですが、望月館長がおっしゃったように素晴らしい音楽や演劇のホールがあるこの文化会館に、美術作品を発表する場が加えられたというのはとても素晴らしいことだと思います。市民の皆さんが親しめる空間があって、そこに美術作品が並んでいるというのはとても良い文化の香りを街に漂わせるものだと思いますので、そういう意味でも、まだこれは新しいですけども、これから街に馴染んで良い空間になっていけば良いなと思っています。やっぱり作品の力はとても強いので、こういう出来立てほやほやの無機質な空間でも、作品が並ぶとしっかりと美術の場になるんだなと確認できましたので、とても良いこけら落としになったのではないかなと個人的には思っています。

渡辺：渡辺です。川合さんが今おっしゃっていたように、一人一人の美術に対する思いと、魂のこもった作品の力があるので、アートを発信していく力を持ったパワースポットのような場が生まれていくんだなと思います。三島の沢地出身なので三島にこういう場所ができたことをとても嬉しく思っています。いつも尊敬している作家の人たちと一緒に展示できたことも光栄です。このギャラリーが質の高い作品を、世界に発信していけるように企画とかプロデュースを大切にして、かけがえのない場所になって欲しいと思います。

司会：ありがとうございました。今回は、パサディナの作家は新型コロナウイルスの影響を強く受けたことで参加する事ができなかったことは主催者としても非常に残念なことでした。その上で、姉妹都市交流というアプローチで企画された展覧会ですので、まずは文化芸術の国際交流についてからお話を始めて頂ければと思います。では、館長様よりお願い致します。

望月：国際交流、ということでお話しさせていただきますと、まずいろいろな作品を持ち寄っていろいろなテーマを持っていろいろな方向性として非常に全体として生き生きとしたような空間を作っていただいています。一つにはですね、コラボレーションということで先程音楽の話をちょっとさせて頂きましたが音楽については、我々もドイツのベルリンフィルハーモニーをドイツから招聘して演奏していただいたりとか、例えば来年3月に毎年自主制作的な公演を行なっていこうということで「まるごとショパン」というショパンにちなんだ演奏にするなど色々企画をしています、そういう時に例えば美術の作品でショパンに

ちなんだ作品を展示していただいたりとか、館全体として一つのテーマで絵があったり音楽があったり、と一つのテーマで広がりが出てくると思うので、そういったところと一緒にコラボレーション、協力していけたら非常に素晴らしい事業が成立するのかなというところでは。

川合：国際交流は作品の交流もあるのですが、やはり人と人の交流というのが一番大事だと思いますし、それぞれの国、街での滞在という経験がとても大切になってくると思います。そういう意味では、今回、パサディナの方々が来られなかったのは非常に残念だったのですが、今回が最初ですからこれから回を重ねていく中で双方のアーティストがお互いの国を行き来してこちらのアーティストがパサディナに行く、向こうのアーティストが日本に来てそれぞれの文化を体験する、という機会というのは増えていくと思いますので、楽しみにしていきたいなあと思います。

岡部：国際交流という意味では、スタートとしてはとてもいい機会ですし、丁度この改修工事とタイミングがあってすごく話がタイミングよくこういう空間もできて良かったと思います。パサディナの作家さんが来られなかったのは残念で、できればもう少し数が並べば良かったと思います。川合さんがおっしゃったように初回なので、これからいろんなかたちでパサディナに限らず、三島は中国やニュージーランドとか色々交流が姉妹都市としてあるようなのでそういけばいいなあと思います。

渡辺：先ほど、音楽であったり、演劇であったり、色々なものとギャラリーがコラボレーションするというのはすごく素敵なことだと思います。例えばその時の音楽をテーマにした絵と一緒に展示したり、その時の演劇をテーマにしたものを展示したりするなど。ちょうどこのギャラリーの場所が音楽や演劇の方たちの練習場の近くにあり、自然に足を運べるような流れがあるので、多くのアーティストの目に触れて交流が生まれる場所になると思います。アートを通じた有意義な交流のためにも、先ほども言いましたが、作品の質は落とさず作品には厳しく、自分自身も常に真剣に作品制作に取り組んで、地元の三島が未来に進んで欲しいと願います。

山本：自分も、今は大変な情勢ですが、このタイミングで皆様と展示出来た事がとても嬉しく思います。三島に住む方達にも気軽に美術を知ってもらい、作品や作家と直接関われる発表の場が生まれた事はとても素晴らしい事だと思いますし、三島に限らず全国から世界へと今後さらに発展するといいなあと思います。また、ここで一緒に展示を行う人達の関わりも広がり繋がって、まだ知られていないたくさんの方々の魅力を、この三島を通して多くの方々に知ってもらえれば幸いです。

司会：ではここで文化会館からアーティストへ求めること、アーティストから文化会館へ何かありましたら、お願い致します。

望月館長：あまりこちらから偉そうなことを言うのはさらさらなくてですね、やはり皆さん自由な表現をこういったスペースを使っていただき表現していただければそれで

最高でございまして、あとはやはり三島の文化振興の拠点という、先ほどちょっとお話ししましたけれどそういう役割が文化会館としてございますので、ぜひ三島をPRできるような企画展とか、今回の企画展はまさにパサディナ市との姉妹都市交流美術展ということで本当にPRになるような内容になっていると思いますので、引き続き三島の郷土愛を表現していただけるような作品の展示をお願いできたらと思います。会場も今こちらのスペースになっていますけれど実際には外のスペースなども使っていただいてよりアピールできるような、外からも興味を持ってもらえるような仕掛けというようなものを待っています。我々も会場側として協力できるところは最大限やらせて頂きますので、そう言ったところで、お互い三島をPRするという目的ということで、共通認識を持って今後も進めていけたらいいのかなという思いでいます。

川合：作家はこういう空間はいくつあってもいいわけで、発表する機会が多ければ多いほどありがたいというのが本音ですね。この三島にはいくつか展示するスペースがありますけれども、いま望月館長がおっしゃったように、建物全体を使った展覧会のようなものができれば他にはない面白さがあるんじゃないかと。例えばエントランスの広場にインスタレーションしてもいいでしょうし、そのような場所は多くのアーティストが喜んで使うのではないかと思います。そういう場所を使いたいという人は国内外に沢山いるでしょうから、展示の機会を頂けてPRしていただけるのであればとても面白い場所になるのではないかなと思います。私としてはいま館長からいただいた心強いお言葉を受けて、この空間のこれからの発展に期待しています。

岡部：作家側の立場として、というかとりあえずここが何もない、がらんとした空間の状態から、見させてもらっていてそこから考えると天国のようなスペースに出来上がったなあと思っています。会場は現在ここがスペース自体の名前がついていない、案内的なものが現状ない、まあこの状態のままではいけないと思いますし、ぜひ進めてもらいたいです。あと空間はとてもよく、本当に飾ってみてびっくりしました。この開放的な感じで市民の方たちが気楽に入って見てもらえるとそれはそれでいいなあと思います。これからの期待します。

渡辺：最初の状態を見ていないので分からないのですが、このような素晴らしい場所にして頂けたことに感謝します。ありがとうございます。誰でもふらっと見られる感じだからこそ、本当に企画が重要だと思います。画廊には企画画廊や貸し画廊があるんですが、こちらの空間では企画を大切に、コンセプトを設定して質の高い展示をすることによって、自由に外に開けた場所になって、三島から世界に向けて広がりを持てると思います。三島市出身なので、その中にいられたらなあと希望します。

山本：自分もこの場所もとの状態を見ていないんですが、前はロビーだった空間が、皆様のお力のおかげで、とても素敵な空間になっていて、最初に見た時は驚きました。このギャラリーはまだ始まったばかりですので、いろんな可能性を秘めていて、文化会館はいろんなイベントが開催されて、自然と多くの方々が訪れる場所ですので、それを活かした空間作りや宣伝を工夫するアイデアなど、展示する作家の方々の繋がりによって想像を超えた

新たな展開になっていくのではないかと、いう風に今後に期待していますし、私も協力できるように作家活動を努めていきたいと思います。

司会：ではここで国際交流という観点で、逆に海外で展示をしたことのある作家の方がいらしたらそこでのご経験などお聞かせいただければと思います。川合さんは韓国で展示されたことがあると伺いましたが。

川合：はい、海外には作品を持って売りに行くのですが、文化交流という側面から見ると、現地のアーティストやギャラリスト、そういう人たちとともに、その街で何日か過ごす中で経験する文化や歴史の違い、そういうものを肌で感じるということは当たり前なんですけれども、実際行ってみないとわからないことです。それが更に自身の作品を通しての交流というのがとても具体的ですし、いい機会になるのではないのでしょうか。海外から三島のこの空間に来てもらう、この空間で展示ができるから三島に来てもらう、という流れが生まれればと思うんですね。アーティストは展示する場所を常に必要としていますから、こういう白い四角い空間が必要なアーティストにとってはとてもいいと思います。僕が海外に行く時もそういう空間というものを求めていくわけです。行ったことのない場所、どこでもいいわけですが、知らない土地で様々な人やものと触れ合えるということはとても自分の為になりますね。アーティストとしての視野が広がる、とても大切なことだと思います。なぜならその経験を経てつくられた作品をこういう場所に展示して、多くの人に見てもらおうというのが、また還元していくことになるのではないかなと思うからです。作品を通した両国の交流という意味で、まあこのコロナが終わった後ということになるとは思いますが、パサディナ市をはじめとする姉妹都市と交流を深めていけたらと期待しています。

岡部：作家として海外に行ったことはありません。作品はNYとか中国とか、展示はさせていただいていますけれど、自分には行ったことがないので、海外の方の反応とか、正直、直接ないんですけど。あああの、最近インスタを始めまして毎日投稿していますが、結構海外の方の反応が面白くて多少のコメント返信をgoogle翻訳でなんとかやったりしながら楽しんでいますが、まあそういうことでもやっぱり、海外の反応は日本とまたちょっと違ったりして面白いなあと思いつつ、そういうことが直接できればそれはそれで、こういうスペースで、必ずしも姉妹都市の関係に限らず三島にも結構外国の方がいらっしや、そういう方たちにも見てもらいながら、いろんな形で繋がっていければいいかな、と思っています。

渡辺：韓国で一度、個展をし、その後にアートフェアに参加したのですが、その交流の中でとてもグローバルだったり、展示の空間が広がったり、アートに関して開かれているな、というのを感じました。来年、ドイツで3ヶ月間アーティストインレジデンスに参加する予定です。レジデンス先であるシュピネライという場所は廃墟になった工場の跡地に多くのアーティストが滞在して制作し、最終的に発表して帰る、というプログラムなのですが、敷地内には画材屋さんが入っていたり図書館があったり複数の画廊が入っていて、アーティストにとって理想的な空間があり、それがいいなあと思っていました。来年ようやくレジ

デンスに行くことができるようになったので、滞在制作し現地の評論家やアーティストと作品について話しあい、グループ展をさせていただきます。レジデンスを通して学んだことを、魅力あるこれからの三島に繋げてゆけたらと思います。

山本：自分はまだ海外で展示した事はないのですが、本当は今年の秋、アメリカのシアトルのアートフェア等で発表する機会がありましたが、コロナの影響で出来なくなってしまいました。ですが、今回こういう国際交流展という展開でパサディナの方々と同じ空間で作品を展示できた事は大変光栄ですし、地元三島でお世話になった多くの方々に直接作品を見てもらう事ができたのは、大変ありがたく思っております。

司会：皆様ありがとうございました。この場所が今後どのような形で盛り上がっていくか、ということを楽しんでいます。本日はありがとうございました。

全員：ありがとうございました。